

## INTERNATIONAL INFORMATION インターナショナル・ビジネス・プログラムのご案内

2021年度

# IBP

## International Business Program

### プログラムの目的 国際社会で活躍できる人材育成

本学部は、アドミッションポリシーとして国際公務員、外国企業勤務、海外ボランティアなど国際社会での活躍を志望する人材を求めています。このプログラムは、こうした志望を持つ学生に対して、1年間の協定校での留学による単位取得を柱として、「国際化、情報化などに対応できる能力」を育成するよう取り組み、国際的に活躍できる企業人・公務員の育成を進めるものです。

### プログラムの概要 留学を含めて4年間で卒業 独自の留学奨学金で支援

協定校留学を希望する学生に、1年次より演習などの教育上の支援体制を整備し、留学への準備を進めます。留学中は、派遣先交流協定校での正課ないし語学コースなど予科・補講などを進んで履修し、帰国後これらは卒業要件上の単位として認定されます。留学前・中にも所属する演習担当教員の指導を受けるとともに、帰国後はその成果を報告し、これらを卒業論文等に反映させるよう取り組み、卒業とともに本プログラムの修了を証します。

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 募集時期   | 1年次前期末・基礎セミナーの所属振り分けと同時に行う   |
| 条件(選抜) | 1年次後期に交流協定校派遣留学生選考で選抜されること   |
| 留学時期   | 2年次後期～3年次前期                  |
| 留学先    | 交流協定を結んでいる海外の大学              |
| 費用     | 留学先での授業料の不徴収                 |
| 奨学金    | 学生支援機構および学内制度と本学部固有の「久保奨学基金」 |
| 支援体制   | プログラム申請時より演習指導教員が当たる         |
| 対象学生数  | 30名程度                        |

留学経験でグローバルな  
視点を持つ人材に。

1年次前期末

### プログラム申請

交流協定校への留学を希望する学生は本プログラムに申請します。  
申請は、基礎セミナーの希望調査と同時にを行います。

1年次後期初

### 基礎セミナー・ビジネス英語A

希望留学地域のネイティブ教員など本プログラムプロジェクト教員の演習に配属されます。  
ビジネス英語を履修して派遣留学生選考に備えます。

1年次後期

### 外国語検定試験受験

TOEFLを受験します。

1年次11月

### 派遣留学生選考

交流協定校への派遣留学生選考で選抜されて以後、このプログラムが本格的に適用されます。

2年次前期

### 中級セミナーⅠ・留学準備英語

派遣留学予定地域のネイティブ教員など本プログラムプロジェクト教員の演習に配属されます。留学準備英語等を履修して留学に備えます。

2年次後期～  
3年次前期

### 留学

派遣先での正課ないし語学コースなどを進んで履修します。中級セミナーⅡ・演習Ⅰが単位認定(4単位、留学期間半年の場合は中級セミナーⅡ、2単位のみ)されます。担当教員へ事前の研究計画書提出・期間中の実質的な指導・帰国後報告書提出が必要です。



ノースカロライナ大学



パダボン大学



高麗大学

3年次後期

### 帰国

協定校で取得した単位の認定を行います。また、留学成果報告会における報告で、2～4単位の認定を行います。

卒論・  
卒業認定時

### プログラム修了証授与

プログラム固有の修了証で修了認定を行います。卒業論文が留学成果を反映した内容として作成され、卒業要件を満たしている事が必要です。

## 先輩に聞く。留学体験記！

佐藤 日向 (地域システム学科)

私は、オランダのNHL大学に7か月間留学しました。スタイリッシュな校舎に管理の行き届いた学生寮、何より異文化に寛容で、英語話者が多い環境のおかげで、快適な生活を送ることができました。授業では、かねてから興味のあった広告デザインやマルチメディアの学習に没頭しました。グループワークが多く、他の学生との距離を縮めやすい一方で、プロジェクトの発展のために自分の能力を表現することが求められました。なかなか自信が持てず苦労しましたが、集団全体を見渡し提案する力として、今活きています。異文化交流のイベントでは、ホールに様々な国のブースが並び、食べ歩いたりダンスを踊ったりと、お祭りのように楽しみました。私たちも、「夏祭りの屋台」を模したブースでおにぎりや豆移しゲームを紹介したことが功を奏し、イベント後の投票では4位を獲得することができました。そのように目まぐるしい留学生活の中で、私は二つの大切な時間に支えられました。人と共有する時間と自分と向き合う時間です。恥をかくことを恐れずに多くの人と話してみることがいつの間にか自分のエネルギーになっていたりと、自分の行動や感情を冷静に振りかえることで努力が必要な部分や活かせる長所が見え、成長することができました。最後に、留学に正解のカタチはありません。しかし、誰もが予想外の学びや刺激に出会うはずで、小さな出会いを素敵に感じて、この機会を存分に活用してみたいかがでしょうか。



宇都宮 大志 (地域システム学科)

私はアメリカのサンフランシスコ州立大学に留学しました。初の海外留学で、はじめの頃は言葉の壁や文化の違いに苦しみました。しかし、サンフランシスコは多様性溢れるまちで、周りの人々の温かさや思いやりにも何度も助けられました。大学の講義では現地の学生についていけず、悔しい思いもしましたが、講義後は教授の研究室に毎回駆けつけ、1時間以上質問したり教授との会話を重ね、内容の理解を深めていきました。そこで得た「学ぶ姿勢」の大切さは、今の私の原動力です。

大学以外では、起業家にお会いしに行ったり、イベントを主催したりと自ら行動を起こすことを第一としていました。サンフランシスコにはシリコンバレーが隣接しており、GAFAをはじめとしたIT世界最先端の街と言えます。自動運転車の走行や無人コンビニ、ロボットがコーヒーを淹れるショップがあったりと、最先端のテクノロジーが社会に溶け込んでいる姿に大きな衝撃を受けました。また、起業家のビッチも毎週のように開催されており、世界中から集まる起業家や一流のエンジニアに出会い、彼らの熱意やビジョンに触れることができたのは私にとって大きな糧となりました。サンフランシスコ留学で得た経験と、支えてくださった多くの方々への感謝の思いを胸に、私自身も恩返しができるよう今後もより一層励んでいきたいです。

